



「できた！」

No.40

文責 校長 木下和敏

一命を守るために～避難訓練と交通事故防止～

昨年10月29日の深夜、ハロウィーンの行事で賑わうソウル（韓国）の梨泰院（イデウオン）で、人並みに押しつぶされ、多くの人々が亡くなる事故が起きました。日本でも、平成13年7月21日に兵庫県明石市で行われた花火大会において、駅から来た客と会場から来た客が合流する歩道橋上で、200名近い人が死傷する群衆事故が発生しました。危険は、日常生活の中にも隠れています。過去の惨事から命を守るための行動を学ばなければならないと思います。

11月1日（水）に本年度第2回目の避難訓練を実施します。今回の訓練は地震発生時における命を守る行動の仕方や集団避難の方法を習得することがねらいです。地震や火災を予知することは難しく、校内放送等から正しい情報を得て、どのように避難するか自分で判断しなければなりません。授業中であれば教師の引率のもとに避難することができますが、休み時間などの場合は、避難経路も自分で判断し、避難場所としている運動場まで安全に気をつけながら避難することが求められます。ポイントは「落ち着いて行動する（パニックにならない）」ことであり、「おかしも」（押さない、駆けない、しゃべらない、戻らない）を心がけることです。非常時の際の命を守る行動についてしっかりと学んでほしいと思います。

日常生活の中で命に関わることとして「事故」があります。中でも交通事故は、登下校時だけではなく遊びの中でも心配されることです。先日、浦上警察署の方が来られて、交通事故を誘発することにつながる横断歩道の渡り方についてお話をされていきました。

【事例1】

信号機のない横断歩道でのことです。子どもが横断歩道で立ち止まっているのを見て、運転手は横断歩道前で一時停止しました。子どもは横断歩道を渡り始めました。横断歩道の半分過ぎまで子どもが渡り終えたので、止まっていた運転手は車を発進させようとしてしました。すると、半分過ぎまで渡っていた子どもが向きを変えて、元居た場所へと走ってきました。運転手は急ブレーキをかけることで事故を防ぐことができました。

【事例2】

信号機のない横断歩道でのことです。子どもが横断歩道で立ち止まっているのを見て、運転手は横断歩道前で一時停止しました。しかし子どもが渡ろうとしないので、運転手は車を発進させようとしてしました。すると、子どもがいきなり走って横断歩道を渡っていきました。運転手は急ブレーキをかけることで事故を防ぐことができました。

【事例3】

信号機がある交差点でのことです。交差点を右折しようとして交差点に入ってきたところで、横断歩道の手前から交差点を斜め横断する子どもの姿が運転手の目に飛び込んできました。斜め横断する子どもからは右側の背後になるため車が確認されていません。運転手は急ブレーキをかけることで事故を防ぐことができました。

学校では、日常生活に潜む危険から自分の命を守ることができる子どもたちへと成長していくことを願い、指導をしていきます。御家庭でも安全な生活、命を守る行動についてお話ししたいと思っています。よろしくお願いいたします。

毎日、戦争で多くの人々の命が犠牲になっているニュースが流れています。命より尊いものはありません。戦争が終わり、どの国の人々も安心して普通の暮らしができる日が来ることを願います。